

表題	カセット方式いぐさ機械移植における 生産安定のための株間及び植付茎数	機関	農業研究センター い業研究所
概要	いぐさ機械移植における植付時の株当たり株間及び植付茎数の違いは、収量に影響する。植付時の適切な株間は、早刈栽培では16～18cmが望ましい。 また、適切な植付茎数は、早刈栽培では大株(15～20本)が望ましい。		

研究のねらい

機械移植のいぐさは、慣行手植に比べ植付時の損傷などによる初期生育の遅れから、収量、品質が劣る傾向にある。

また、植付時甲株の植付茎数及び株間の違いは、植付精度、生育、収量に加え、苗使用量にも関係するものと考えられる。

このため、植付時の苗の植付茎数及び栽植密度を検討し、いぐさ機械移植の生産安定を図る。

研究の成果

1. 1株当たりの植付茎数を少なくすると、作期の違いにかかわらず、正常株率が低下する。正常株率95%以上を確保するためには、株当たりの植付茎数は15本(合わせ株を含む。)以上が望ましい。
2. いぐさ機械移植栽培の生産安定のための適切な株間は、早刈栽培では16～18cmが望ましい。
3. 適切な植付茎数は、早刈栽培では大株(15～20本)が望ましい(図4・5)。

普及上の留意点

1. 機械移植栽培では、手植栽培に比べ、大きい株を植付けるので、苗床面積は慣行の2～3倍を確保する。
2. 品種は、早刈栽培で「くまがわ」、普通刈栽培で「岡山3号」を使用する。

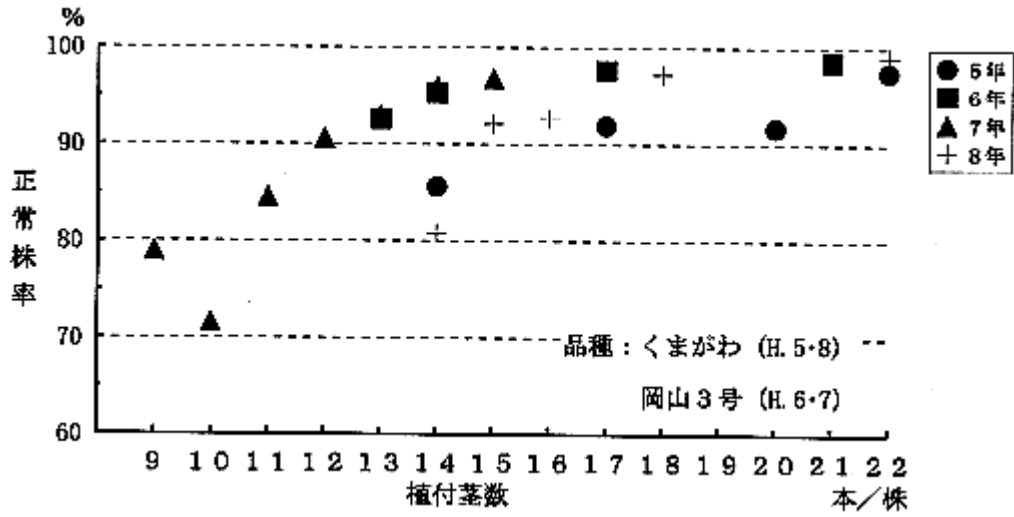


図1 植え付け本数と正常株率

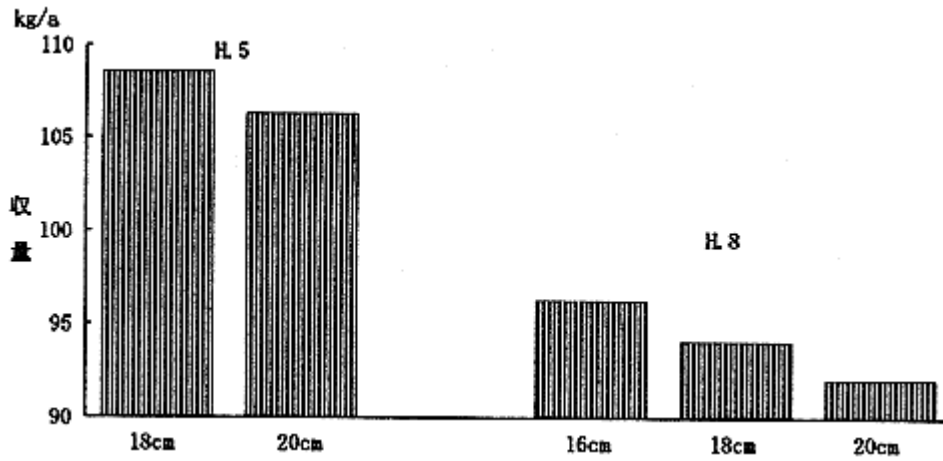


図2 株間と収量 (早刈栽培)

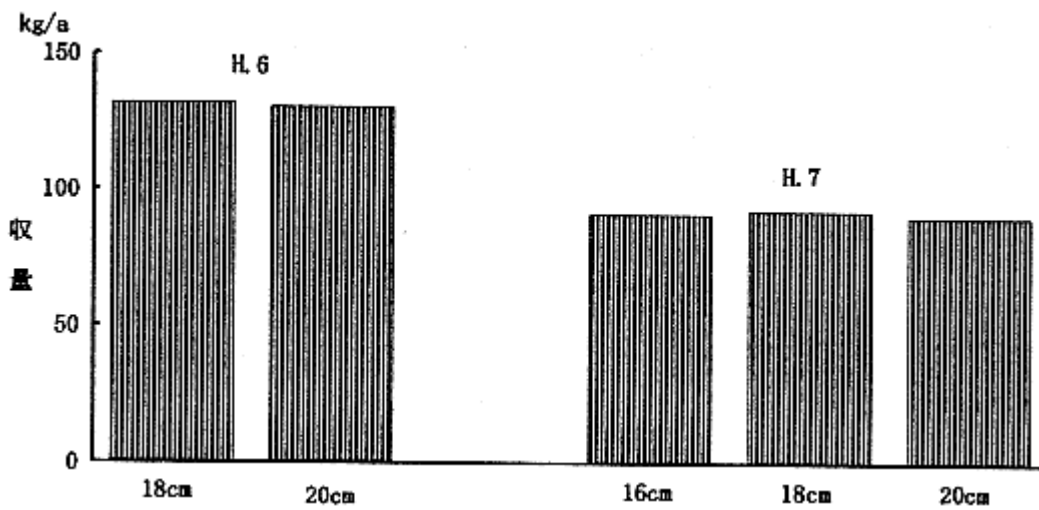


図3 株間と収量 (普通刈り栽培)

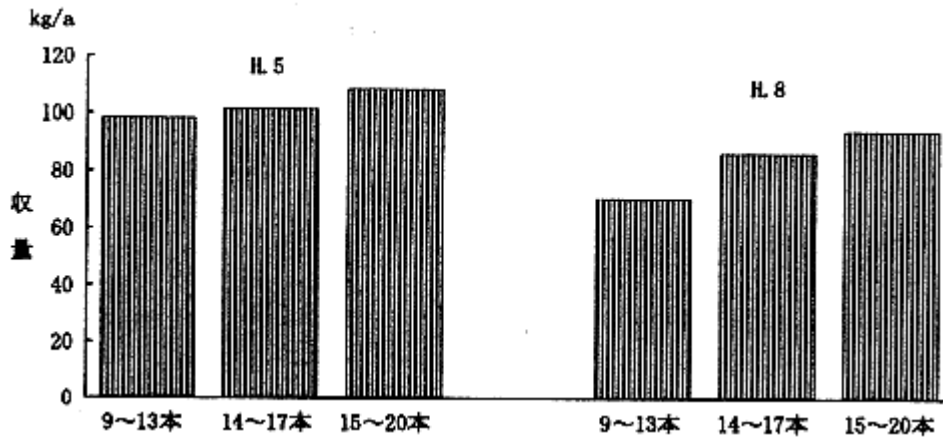


图4 植付茎数と収量（早刈栽培）

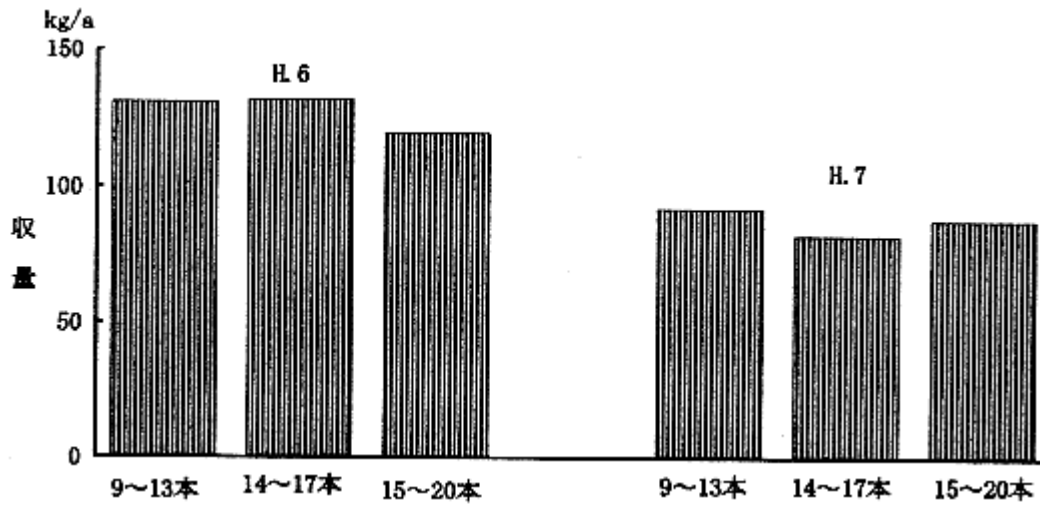


图5 植付茎数と収量（普通刈栽培）